

## 5 戦略

Hondaのサステナビリティ	13
持続的な成長のために	14
2030年ビジョン	15
地球環境負荷ゼロ達成に向けた 取り組み	16
マテリアリティ分析	19
Hondaの取り組みとSDGs	20
サステナビリティマネジメント体制	23
ステークホルダーエンゲージメント	24
— 研究開発	28
イノベーションマネジメント	29

## 研究開発

## 基本的な考え方

Honda は、未知の世界の開拓を通じて新しい価値を創造することを目的に、1960年、本田技研工業株式会社から研究開発部門を分離・独立させ、独自の研究開発機構である株式会社本田技術研究所を設立しました。

以来、研究所は多様な個の一人ひとりが能力を最大限に発揮するというHondaの基本理念を体現するとともに、徹底的な本質的価値の追求、とくに人を中心とした価値観の研究に取り組むことで、新しい価値の創造に挑戦してきました。カーボンニュートラル社会へ向けた世界的取り組みの加速、急速に進むデジタル化等、大きな社会構造の変化においてもその考え方に変化はありません。地球的視野に立ち、提供する技術、商品、サービスを通じ、一人ひとりのお客様の喜びを追求していくことがHondaの企業活動および研究開発の本質であると考えています。

## サービス・ソリューション指向のモビリティカンパニーへの変革をめざして

Hondaは2019年4月に二輪の研究開発機能を、その翌年2020年4月には四輪の研究開発機能をそれぞれ本田技研工業株式会社に統合することで、開発・営業・製造・購買が一体となり競争力の高い商品をタイムリーに提供していくための体制に再編しました。

また、2022年4月には新たな成長・価値創造を可能とするモビリティカンパニーへの変革のため、ハードウェアとソフトウェアやサービスの融合にむけた新組織として本田技研工業株式会社下に「事業開発本部」を設立しました。電動事業開発、新事業開発ならびに複合ソリューション開発の加速と早期具現化をめざし、ソフトウェア、電動コア部品各領域の開発を加速しています。

さらに、株式会社本田技術研究所は、将来のモビリティ革新技術と先進

技術創出に取り組む専任組織である「先進技術研究所」、Hondaの競争力の源泉であり強みであるパワーユニットと環境エネルギー領域のエキスパートを商品の枠組みを超えて集結させた「先進パワーユニット・エネルギー研究所」、暮らしの新価値を創造する「ソリューションシステム開発センター」、価値創造の原点である「デザイン」を、一貫性のあるブランドメッセージとしてお届けする「デザインセンター」の体制に再編しました。

新たな価値創出に向けては、自社単独開発のみにとらわれることなく外部協業先・ビジネスパートナーとの連携も図りながら、「すべての人に生活の可能性が広がる喜び」をお届けすべく取り組んでいきます。

## 研究開発体制

